

(別記)

駒ヶ根市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

経営耕地面積の8割以上が水田面積のため、水稻を基幹に、麦・大豆・そば・飼料作物等の転作作物への誘導を図っているが、急峻な地形や湿田等の影響により、生産性の向上に苦慮している。水稻以外の作物振興を図るための圃場条件整備や条件にあった作物の選定が今後の課題のひとつとなっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

コシヒカリを中心に水稻全体で731ha（H29年産実績）を作付けています。営農組合の機械利用部や協業組合・農事組合法人による共同機械作業、JAの共同施設を活用した低コスト化を進めます。安心安全な生産体系の定着や食味を重視した一層の品質向上、新規需要米等の生産拡大に取り組むと同時に、食味に重点を置いた、安全・安心を基本とする農薬防除体系や環境対策等に取り組めます。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

補助事業を活用しながら生産性の向上へ向けた取り組みを行うなど、管内の必要量を確保するため、地域の畜産農家との連携を深め地域一体の取り組みを強化し、安定した供給体制を目的とした栽培に取り組めます。

イ 米粉用米

地域イベントでのPRや農業・商業・学校・幼稚園・保育園などと連携し、生産性の向上への取り組み、消費拡大や新たな需要開発に取り組めます。

ウ WCS用稲

地元畜産農家のニーズに対応するため、団地化の推進や生産性の向上を行います。

エ 加工用米

転作作物として取り組み、供給体制の整備を行います。生産性向上の取り組みとともに、共同乾燥施設での主食用米との同時受け入れを行い、味噌等の実需者への受入先を推進します。

オ 新市場開拓用米

国内の主食用米の消費が減少している中、海外市場に積極的に取り組んでいきたい。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦は、大麦を主体に食用大麦として栽培していますが、水稻と同様、作業受託を行い、大型機械の共同利用による低コスト化を進めます。また、認定農業者及び農事組合法人などを中心に生産拡大を行い、栽培技術の徹底と機械化一貫体系による省力栽培と排水対策等の圃場整備により、生産性の向上を行います。

大豆は、地元加工業者や加工グループとの連携を深め、味噌等の生産・販売に利用するなど、地産地消の推進に取り組みます。消費者・実需のニーズに合わせた品種栽培と高品質大豆生産を行うため、ブロックローテーション等により連作障害を回避、排水対策等による圃場条件整備を推進します。

飼料作物は、畜産農家のニーズに応えられる、供給体制を強化します。栽培面では、需要にあった品種の選定、連作障害対策等基本技術の改革により、安定した生産活動や生産性向上、生産拡大に取り組みます。

(4) そば

長野県の特産というイメージがある作物であり、転作田を中心に栽培が行われています。今後も、生産性向上の取り組みを行い地場消費の拡大を図ると共に、特産物として一層の販路拡大と高付加価値化に取り組みます。

(5) 高収益作物（野菜等）

アスパラガス・ネギ等を中心に、直売所の設置等により販売用野菜の生産者が育成され栽培が増加しています。需要が伸びているジュース用トマトには生産性と低コスト化を目指した取り組み、業務用キャベツについても法人への作付け推進や安定生産、生産者や生産数量の増加に取り組みます。アスパラガスは、簡易ハウスを利用した安定生産への取り組み、ネギは共同育苗および共同選荷施設への出荷を行い、女性や高齢者などの担い手を含めた地産地消による一層の拡大に取り組みます。

また、ごまを駒ヶ根市の地域ブランドとして、農商工連携のもと地域全体で特産化を図ります。栽培作業の機械化など効率的な栽培に取り組み、安定供給が図られるよう栽培面積の拡大を図ります。

(6) 畑地化の推進

大麦、大豆、そばなどの土地利用型作物の生産面積を拡大させるため、明渠や暗渠などの排水対策等を推進します。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	731.1	780	740
飼料用米	0.7	0.5	1.0
米粉用米	0.6	0.5	1.0
新市場開拓用米	0.0	1.5	2.0
WCS 用稲	13.5	12.7	14.0
加工用米	1.1	1.0	1.5
備蓄米	49.0	0.0	40.0
麦	69.7	85.0	90.0
大豆	12.3	13.0	15.0
飼料作物	7.7	8.0	8.0
そば	103.5	110.2	115.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	44.3	47.9	55.0
野菜	23.0	30.0	32.0
花き・花木	9.3	8.0	10.0
果樹	0.0	0.0	1.0
雑穀	0.0	0.0	0.0
その他	12.0	9.9	12.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	ごま	地域特産品への助成	作付面積	(29 年度) 14.3 ha	(32 年度) 12.0 ha
2	アスパラガス	所得増加につながる 作物生産への助成	作付面積	(29 年度) 4.1 ha	(32 年度) 5.0 ha
	業務用キャベツ			(29 年度) 0.8 ha	(32 年度) 3.0 ha
	ジュース用トマト			(29 年度) 1.5 ha	(32 年度) 2.0 ha
3	ネギ	所得増加につながる 作物生産への助成	作付面積	(29 年度) 8.9 ha	(32 年度) 10.0 ha
4	麦	戦略作物への加算	作付面積	(29 年度) 58 ha	(32 年度) 75 ha
	単収		(29 年度) 4.7 万円/10a	(32 年度) 5.0 万円/10a	
	大豆		作付面積	(29 年度) 23 ha	(32 年度) 23 ha
	単収	(29 年度) 4.2 万円/10a	(32 年度) 4.5 万円/10a		
	飼料作物		作付面積	(29 年度) 7.7 ha	(32 年度) 8.0 ha
5	米粉用米	戦略作物への加算	作付面積	(29 年度) 0.58 ha	(32 年度) 0.4 ha
	飼料用米			(29 年度) 0.65 ha	(32 年度) 1.0 ha
	加工用米			(29 年度) 1.1 ha	(32 年度) 1.5 ha

6	そば	地域振興作物への加算	作付面積 単収	(29年度) 117 ha (29年度) 2.4万円/10a	(32年度) 114 ha (32年度) 2.8万円/10a
7	ブロッコリー	地域振興作物への加算	作付面積	(29年度) 1.9 ha	(32年度) 3.0 ha
8	カーネーション	地域振興作物への加算	作付面積	(29年度) 5.0 ha	(32年度) 4.9 ha
	アルストロメリア			(29年度) 3.7 ha	(32年度) 3.8 ha
	トルコギキョウ			(29年度) 0.9 ha	(32年度) 1.1 ha
	小菊			(29年度) 0.2 ha	(32年度) 0.6 ha
	柿			(29年度) 0.3 ha	(32年度) 0.5 ha
	栗			(29年度) 0.3 ha	(32年度) 0.5 ha
	りんご			(29年度) 19 ha	(32年度) 19.2 ha
	ぶどう			(29年度) 2.3 ha	(32年度) 2.7 ha
9	そば・なたね	そば・なたねの取組	作付面積 単収	(29年度) 117 ha (29年度) 2.4万円/10a	(32年度) 114 ha (32年度) 2.8万円/10a
10	飼料用米	飼料用米、米粉用米 に係る多収品種の取組	作付面積	(29年度) 0.65 ha	(32年度) 1.0 ha
	米粉用米			(29年度) 0.58 ha	(32年度) 0.4 ha
11	加工用米	加工用米に係る複数 年契約の取組	作付面積	(29年度) 0.4 ha	(30年度) 0.4 ha
12	新市場開拓用米	新市場開拓用米への 取組	作付面積	(29年度) 0 ha	(32年度) 2.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり